

## 8月17日の高山豪雨災害

今回の大雨は予想を覆す雨と、経験した事のない雨でした。テレビや新聞、ネットなどで日頃から気にしていたが、いつか災害がくると思いつつ、わかっているようでも決して人ごとではないと痛感した。

今まで見たことのない断続する雨、山から吹き出す水、吹き上がる側溝の水、荒れ狂う河川、橋も流す勢い。本当に凄まじいものでした。国道が林道のように石がゴロゴロと点在し、縦横無尽に濁水が流れる状況は簡単には説明出来ない光景であった。

今回の弊社の緊急対応は国道41号の危険箇所の応急復旧作業とその作業の為の規制、通行止めであった。防災隊長から連絡をもらい、即座に社内緊急連絡で人を集め、現地に集合するには30分を経過しない時間に十数名が集まった。日頃の連絡訓練の結果であると感じた。その後発注者に連絡、調整し、資機材を集め、連絡を頂いてから1時間経過しない範囲で通行止めにはいった。重要なのは通行止めする事ではなく、停車させた車1台1台に説明をし、迂回路、地図などで理解をしてもらい混乱することのないようにする事だと思った。地元業者の強みは地域の現状を把握しているので、道案内や、宿の情報なども丁寧に説明出来ることだ。こんな天候の場合には車の中の皆様もいらつき、早く帰りたいと急いでいるにも係わらず、非常に冷静に話を聞いて頂き、私達も本当に有り難いと感じた。中には説明後Uターンし戻る際に、深々と頭を下げて行く姿に感動した。どんな状況の時にも感謝する姿は実にすがすがしいものだ。「お陰様」、「お互い様」の気持ちを持って接する事の大切さを学ぶことが出来た。

社員の中での提案で何枚か注意看板を作って、通行出来ない事を周知出来れば渋滞に並ばず、早く戻れる人もあるのではという事で早急に看板を製作し、設置したところ、渋滞の車も減り、顕著に効果が見られた。各々が現場の状況を理解し、工夫する能力、決断力に驚きながら、感心した。確実に社員は育っているのだと感じ、とても嬉しかった。

災害を喜ぶものは誰もいない、しかし、我々の業界は使命として即座に集まり、地域の皆様の安全で安心して暮らせるよう守る気持ちが本当に強い。その支援する姿に今まで以上に役割を果たせるように頑張りたいと感じた。そういった場面で社員の真剣な姿を見る事が出来た事にも感謝したい。

大きな声で届けたい 建設業の役割は大きいと。

長瀬 雅彦